

敷地の確認

ここでの監理者の心構え

設計者が確認すべき事項との重複も多いが、現場監理者も現地で再確認をしておかないと近隣や役所を巻き込んで、あとで大きなトラブルとなってしまうことがある。設計図書と敷地状況の確認は、現場監理者の必修事項と考えることが必要。

工事名	工期	年 月 日 ()
	工事責任者	

項目	ポイント	✓	チェック項目
道路境界の確認	道路境界の明確化が必要 写真①～⑤	<input type="checkbox"/>	道路境界の杭 (有 ・ 無)
		<input type="checkbox"/>	道路境界がなく、側溝が実質の境界となっている
		<input type="checkbox"/>	道路境界がなく、縁石が実質の境界となっている
		<input type="checkbox"/>	道路境界はないが、道路中心のポイントがある
		<input type="checkbox"/>	道路境界はないが、正確なポイントを設定できる
		<input type="checkbox"/>	設計図書と現場の食い違い (有 ・ 無)
道路幅員の確認	道路として認められているかを必ず確認 写真⑥	<input type="checkbox"/>	幅員 4m 以上がある (m)
		<input type="checkbox"/>	セットバックの必要 (有 ・ 無)
敷地の接道状況	旗竿敷地の接道は、引込み長さによって 2m 以上必要な場合があるので注意 写真⑦	<input type="checkbox"/>	4m 以上の道路に 2m 以上接道しているか
		<input type="checkbox"/>	旗竿敷地の場合、引き込み長さは？ (m)
		<input type="checkbox"/>	資材搬入上の問題点はない
		<input type="checkbox"/>	設計図書と現場の食い違い (有 ・ 無)
道路との高低差	敷地の高低差が 1m 以上になる場合は、特に注意 写真⑧、⑨	<input type="checkbox"/>	道路面と敷地の高さ確認
		<input type="checkbox"/>	設計 GL が現場との問題は無いかを確認
		<input type="checkbox"/>	設計図書と現場の食い違い (有 ・ 無)
隣地との境界杭	隣地境界の明確化が必要だが勝手に移動したり設置しないこと 写真⑩、⑫	<input type="checkbox"/>	隣地境界の杭 (有 ・ 無)
		<input type="checkbox"/>	隣地境界がなく、塀が実質の境界となっている
		<input type="checkbox"/>	塀のどちら側が実質の境界となっているか確認
		<input type="checkbox"/>	隣地境界はなくても、正確なポイントを設定できる状況
		<input type="checkbox"/>	隣地境界が無い場合、隣地の所有者と境界の認識が一致している
		<input type="checkbox"/>	境界杭を移動したり、壊さずに工事が可能
塀の状況	塀が隣地境界を兼ねていても隣地と認識が食い違っていることがあるので注意 写真⑬、⑭	<input type="checkbox"/>	ブロック塀やフェンスなどがある
		<input type="checkbox"/>	塀の所有者は確定している
		<input type="checkbox"/>	ブロック塀がある場合の高さは？ (m)
		<input type="checkbox"/>	ブロック塀が 1.2m 以上の場合、控え壁はある
		<input type="checkbox"/>	塀を新規または、やり直す必要がある 1.2m 以上の場合、建築基準法施工令 61 条、62 条で確認
		<input type="checkbox"/>	設計図書と現場の食い違い (有 ・ 無)

